

一般質問通告書

通告順番 8 番

通告者 清原 さおり 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 不登校支援と第三の居場所づくりの充実について	大津町でも不登校の児童生徒数は年々増加しており、この傾向は全国的にも同様である。各地で対策が講じられているものの、明確な減少には至っていないのが現状である。 当町においても、教室に入れない児童生徒のための安心できるスペースが設置されるなどの取り組みが行われているが、そもそも学校の門をくぐれない児童生徒も少なくない。 そのような児童生徒の中には、学校外である教育支援センター、民間教育施設、子ども第三の居場所などに通うケースも見られる。不登校児童生徒の支援、施策についてはこれまでの議会でも取り上げられ、一定の改善が進んできたが、学校外の居場所の活用状況や連携体制など、依然として検証すべき課題が残っていると考ええる。 以上を踏まえ、次の 2 点について問う。 （1）学校外の施設利用状況と出席認定、連携状況について 学校に登校できない児童生徒がどこで過ごすのかは、本人の学びの継続と家庭の安心、そして学校との連携の在り方に直結する。そこで、以下を確認したい。 1 ICT 活用や民間施設への通所などにより、学校外で学習しながら出席認定を受けている児童生徒数はどれくらいか。 2 一方で、出席認定は受けていないが、日中に民間学習施設や子ども第三の居場所等に通っている児童生徒の実数をどの程度把握しているのか。 3 不登校児童生徒やその家庭に対して、学校外の居場所の情報をどのように周知しているのか。その際、民間の施設についても案内しているのか。 4 民間教育施設や子ども第三の居場所と、学校・教育委員会との連絡体制・情報共有・ケース会議の実施状況はどうなっているのか。連携の実効性をどのように確保しているのか。 （2）子ども・家庭・地域を含めた「第三の居場所」の拡充について 不登校支援だけでなく、子ども・家庭・地域住民にとっての「第三の居場所」のニーズは高まっている。学校・家庭以外で安心して過ごし、相談や交流ができる場づくりは、地域全体の支え合いにもつながる。そこで、以下を問う。 1 6 月と 11 月に実施された、おおづ図書館およびオックス談話室での放課後フリースペースには多くの中高生が利用した。図書館では長期休暇中の学習ス	教 育 長

一般質問通告書

通告順番 8 番

通告者 清原 さおり 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
	ース開放も行われてきたが、今後も継続的に実施する考えがあるか。 2 地域学校協働活動では、大津北小学校での地域住民による昼休み囲碁活動、護川小学校での夏休み期間に校区内公民館などで行われた学習見守りや理科の実験教室など、地域による支援が広がっている。地域学校協働活動 4 本の柱の中にも「子ども第三の居場所づくり」が掲げられているが、これらの取り組みをさらに推進するため、町としてどのような支援や体制整備を行うのか。 3 児童生徒だけでなく、保護者が悩みを共有できる場も重要である。以前は教職員、SC、SSW が同席する茶話会が開催されていたが、再開する考えはあるか。	